

令和7年松本市議会12月定例会

市長閉会あいさつ

[7.12.18 (木) PM1:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たりご挨拶を申し上げます。

議員の皆様には、18日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定していただいたことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

昨日、臨時国会が閉会し、総合的な経済対策を盛り込んだ総額18.3兆円の2025年度補正予算が成立しました。

この中で、政府は、地方自治体が食料品などに対する物価高対策を地域の実情に応じて実施するための重点支援地方交付金として2兆円を追加し、松本市には、およそ20億円が追加交付されることとなります。

松本市は、この交付金を活用した物価高対策として、全ての市民に対し、食料品等の購入に幅広く利用できる電子クーポンの配布と、昨年度と同様、水道料金と下水道料金の2か月分の減額を実施してまいります。

加えて、先週決定した長野県の11月補正予算の事業を活用した、低所得者世帯に対するエアコン設置の支援や、低所得のひとり親世帯への支援金の給付についても、検討を進めてまいります。

物価高がもたらす暮らしへの影響を少しでも早く和らげるために、効果的な対策をスピード感を持って実行してまいります。

松本市立病院の建設基本計画の見直しについて申し上げます。

市立病院の移転建設をめぐっては、医療事故を発端とした産科診療機能の見直しに伴う分娩機能の廃止に加え、医療を取り巻く環境の急速な変化と国や県の医療政策に対応して、将来的な役割と機能を適切に位置付ける必要が生じたことから、基本計画の見直しを検討する委員会を設置し、今週15日に第1回の会合が開催されました。

この中では、病院設置者である私から、国が2040年を見据えて策定する新たな地域医療構想における方向性との整合性、それに長野県が策定した医療提供体制のグランドデザインを踏まえた地域型病院としての役割と機能、これら2つの事項について諮問いたしました。

検討委員会は、信州大学医学部附属病院の花岡病院長を委員長に、松本地域の医療関係者など6名で構成され、来年3月末には答申をい

ただく予定となっています。限られた期間の中で、現在と将来を見据えた実りある審議をお願いしたいと考えています。

今年で5年目を迎える松本城プロジェクトマッピングと市街地イルミネーションが、先週末にスタートしました。

今シーズンは、「松本かっちゃん」をキャッチフレーズに、来月下旬に開催する松本城氷彫フェスティバルなどと合わせて、一連のイベントの一体感を生み出し、冬の観光PRに取り組んでまいります。

「かっちゃん」とは、凍てつく寒さや氷がぶつかり合う音、火の用心で街中に響く拍子木の音といったイメージを表現した言葉で、松本市出身のアートディレクターで観光アンバサダーの清水貴栄さん^{たかはる}に制作していただきました。

松本特有の寒い冬だからこそ堪能できる、美しい景観や多彩な食文化の魅力を、「松本かっちゃん」のフレーズとともに、積極的に発信してまいります。

来年1月下旬に予定していますドミニカ共和国とのスポーツ交流事業について申し上げます。

ドミニカ共和国とは、令和元年にドミニカ代表の空手チームが東京オリンピックを見据えた国際大会の事前合宿を松本市で行ったことを契機に交流が始まり、昨年6月、松本市と駐日ドミニカ共和国大使館が友好協力関係の確立を目指す意向確認書を取り交わしました。

この中では、スポーツ・文化・教育・環境・観光といった分野の交流によって共通の目標を達成できるとして、松本市とドミニカ共和国の地方自治体の間で、それぞれの目的に沿った具体的な協力を促進する意向を確認しています。

今回の事業は、スポーツ分野における交流の一環として、松本市内で野球に打ち込む中学生12人と指導者らが、公式訪問団として現地を訪れます。

滞在中は、ドミニカ第3の都市、ラ・ロマーナ市の野球チームと親善交流試合を行い、市民の皆さんから寄せられた野球道具を贈呈するなどして、同年代の交流を深めるほか、メジャーリーガーを最も多く輩出するドミニカの野球文化に触れる機会として、メジャーリーグ・アカデミーの施設見学やドミニカウィンターリーグの試合観戦を予定しています。

地球の裏側の対照的な文化の下に育ったドミニカの子どもたちとの交流が、松本の中学生にとって大きな刺激となり、それぞれの将来につながる貴重な異文化交流の体験になることを願っています。

最後に、Jリーグ・松本山雅FCについて、申し上げます。

クラブ創設60周年の節目だった今シーズン、松本山雅は、Jリーグ参入以来、最低の成績に終わりました。

反町康治監督の下、人口20万規模の市民クラブとして、J1昇格を2度経験してからその後6年間、坂道を転がるように迷走し、どん底と表現せざるを得ない状況に陥ったと受け止めております。

こうした状況の中で、監督として指揮を取った試合数で歴代最多を記録する、石崎信弘氏が新監督に就任することが決まりました。

過去にJ1へ3度、今シーズンは八戸をJ2へ昇格させた指揮官の就任のコメントを読んで、期待とともに驚きを覚えました。

「魂の底から」「走り倒す」「執念むき出し」「心臓を掴む」「魂を揺さぶる」。1つ1つの言葉の抑揚が、強く強烈でした。スマートだが、どこか力強さやたくましさに欠けた近年の松本山雅とは、真逆と言つていい感覚がありました。

幸い、Jリーグは来シーズンから開幕が8月に移行するため、チームの立て直しに半年余りの期間が与えられています。過去の栄光を捨て、もう一度ゼロから坂道を駆け上がっていくチャンスは、このタイミングしかないのかもしれません。

臥薪嘗胆。薪の上に寝て苦痛に耐え、苦い肝を嘗めて、目的達成のために努力を重ねることを望みます。

松本山雅は、サッカーの枠を超えて、スポーツシーンのみならず、郷土の誇り、市民のプライドを象徴する存在です。大都市のビッグクラブに堂々と対峙できる市民クラブとして再スタートする姿を、「One Soul」で応援してまいります。

今年2025年も半月足らずを残すのみとなりました。議員の皆様におかれましては、時節柄、健康に留意していただくとともに、松本市のシンカ・発展のため、引き続きご支援ご協力を賜るようお願い申し上げまして、12月定例会の閉会に際しての挨拶といたします。誠にありがとうございました。(以上)